

第四回館山市議定会例会議録（第三号）



一、昭和五十七年十二月十四日（火曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十四名

一番 神田 守隆	二番 石井 謙
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男
欠席議員 二名	
二三番 菊井 敏博	三〇番 山口 康

出席説明員

第一号に水道課長を加える。

出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十七年十二月十四日午前十時開議

議案第四十九号

館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十号 損害賠償の額の決定及び和解について

議案第五十一号 損害賠償の額の決定及び和解について

議案第五十二号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十三号 館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定について

議案第五十四号 館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十五号 老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十六号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十七号 昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第三号）

議案第五十八号 昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第五十九号 昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

議案第六十号 昭和五十七年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第一号）

議案第六十一号 昭和五十七年度館山市老人保健特別

会計予算

日程第三 陳情第二号 優生保護法改正に関する陳情書

日程第四 請願第五号 大型店出店促進に関する請願書

開 議 午前十時一分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十三名、これより第四回市議会定例会第三日目の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第四十九号乃至議案第五十六号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、議案の五十三、五十四、五十五、五十六号に關しまして御質問いたします。

まず、議案の五十三号でございますが、館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定についてでございますが、この条例の制定は、今回老人福祉法の老人医療費に関する規定が老人保健法の制定に伴いまして廃止されますので、館山市老人医療費支給条例を廃

止しまして、新たに老人保健法の制定に伴う館山市ねたきり老人医療費支給条例をつくらうというものでありますが、この条例の制定は、制定の意味を、意義をたどっていきますと、老人保健法の制定に深くかわり合いを持つ条例の制定なのであります。すなわち、老人保健法の対応によりましてこの条例が出てきているわけです。

さて、この条例の発生の淵源であります、元になっております老人保健法であります、これは御承知のように各方面に非常に大きな影響を及ぼしていると私は思います。

まず、考えられますことは、この老人保健法の法ができたということにつきまして、いままでは自由に医療費の無料化の制度に浴しておりました老人たちの動揺であります。老人たちが保健法をどのように受け止めているかという問題であります。

また、この件につきましては、国保の老人医療費にかかわる部分が別立てになりますし、老人保健特別会計ということで財政的な見地から見ましても大変大きな変化をしてきております。今回の補正予算でも出てきております。

さて、当市におきましても、今回のこの館山市ねたきり老人医療費支給条例の制定をされるのを機会に、まずは、老人保健法の持っている趣旨とか必然性が市民に理解をされるように自治体としても何らかの努力は必要であるように思われますが、こうした一連の背景を踏まえまして御質問するものであります。

いままで福祉に浴しておりました人たちが、この条例の制定におきましてはみ出したり、除外されたりするということがあり得ると思いますが、それらに關しましてどのように考えますか。ま

ず御質問します。

それから、次の五十四号でありますが、この五十四号と五十五号は非常に類似した議案でございます。おのの奉仕員の派遣を利用する側に立ちまして、そうした立場に立ちまして御質問しますが、そういう利用対象者の階層を分析したり、掌握したりしてこのように載ってきておると思いますが、その分析と掌握の経過を御説明願いたいと思います。

五十六号につきましては、これは現行では、国民健康保険法の規定による届出をせず、または虚偽の届出をした場合においては、その者に対して二千円の過料を科するという罰則規定が、十倍の二万円になっておりますが、この十倍になった過料の積算を当局はどのように理解をされておりますか、御質問します。

以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

まず、議案第五十三号でございますが、老人医療費支給条例に規定されておりました市独自のねたきり老人医療費の支給につきましては、同条例の廃止により、新たに館山市ねたきり老人医療費支給条例を制定し、これらの方々を救うこととなりますので、本条例が成立してもその方々が除外されるということとはございません。

議案第五十四号につきましては、本市におきます現在の身体障害者家庭奉仕員の派遣世帯は六世帯となっております。

派遣内容は、夫婦が身体障害者の世帯が二ケース、一人暮らし

の身体障害者の世帯二ケース、身体障害者と母親の世帯一ケース、身体障害者の母親と子供のいる世帯一ケースとなっております。

昭和五十八年一月より発足予定であります有料による身体障害者家庭奉仕員の派遣希望世帯はございませんが、実態に即し増員を図ってまいりたいと考えております。

次に、議案第五十五号でございますが、老人家庭奉仕員の派遣状況につきましては、現在二十五世帯の老人家庭に對しまして派遣をいたしております。

その派遣内容は、一人暮らしの老人世帯が十四ケース、老人夫婦世帯七ケース、老人姉妹世帯一ケース、その他三ケースとなっております。

新たに昭和五十八年一月より発足を予定しております有料による老人家庭に對する派遣の内容は、五世帯全部所得税三万円以上の課税所帯でありまして、老人夫婦世帯一ケース、一人暮らしの老人世帯一ケース、妻が働いている世帯一ケース、夫婦共稼ぎの世帯二ケースとなっております。

次に、議案第五十六号についての御質問でございますが、国民健康保険条例における過料の算定の根拠と手順についてお答えいたします。

まず、算定根拠でございますが、今回の改正は国民健康保険法の改正に沿ったものでございます。金額を決めるにあたり、厚生省は、昭和三十三年の法制定以来、罰則の額が据え置かれていた間の経済状況の変化を考慮してこの額といたしたものでございます。

本市といたしましても、条例準則の改正が厚生省から示されて

おりますので、全市町村が二万円に引き上げると思われますし、国民健康保険法における法定の罰金等も今回十倍に引き上げられておりますので、これらとのバランスを考慮いたしました。

次に、過料の具体的な手順を申し上げます。過料の決定前に本人に告知し、弁明の機会を与えます。その後過料の額を決定し、納額告知書を発します。なお、決定に不服のときは異議申し立て審査請求ができることになっております。

現在まで、本市で過料を科した例はございません。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君）　ただいま御答弁いただきましたが、五十三号につきましては、これは老人保健法の制定に伴う関係の条例でございますが、いまの御答弁でいわれるいまままで福祉に浴していた人たちではみ出す人はいないという御答弁で一応了解いたします。

この条例の制定につきましては、いわゆる地方自治体としての条例を制定しているところが少ないというように、昨日の質疑の中で出てきたように思いますが、千葉県内でこうしたいいわゆる老人保健法有料化、老人医療の有料化、保険医療の有料化に伴いまして、それを救済していく条例をつくっている市との比較——千葉県内では館山市だけですか。一点お聞きいたします。

それから、家庭奉仕員についてでございますが、家庭奉仕員の有料——いわゆるお金を支払ってホームヘルパーを頼むという、新しい奉仕員の派遣ということで五十四号、五十五号にわたりに出てきているわけでございますが、これらにつきましては額の決め方は全国一律の額の決め方でしょうか。あるいは地域的に

差を持った決め方でしょうか。この額の算出の経過がありましたら説明を願いたいと思います。

五十四号、五十五号、老人にかかわるヘルパー、そして身体障害者にかかわるヘルパーということで、内容的にはこのヘルパーの奉仕内容につきましてはいささか仕事の内容が違ってきているのではないかとというように私は感じますが、こうした違いにおきまして何らかの資格とかそういうものは必要はないのでしょうか。あるいは、こうしたヘルパーを置くための研修する制度とか、研修する機関とか、そういうものは必要ないのでしょうか。また、そういうものがあればこの際説明を受けたいと思います。

それから、これは要望でございますが、特に在宅でいろいろ身体機能を失っている人たちが、おそらくこの五十四号、五十五号にかかわるこの奉仕員を受ける対象者になると思うんですが、自分の体が思うように動かないからヘルパーを頼むということで、こうした在宅の身体の機能が正常でない方々に機能を回復するような訓練をサービスするような機関とか制度とか、そういったことに関しまして、当市としてそうしたサービス行政を進めていただきたいというように私は御要望をするのですが、その要望に関しまして方向性を御答弁いただきたいというように思います。

五十六号に関しましては、ただいまの御答弁で了解をいたしました。

以上です。

○民生部長（鈴木　力君）　今度の老人保健法の施行に伴いまして、いわゆる各地方自治体におきまして独自で政策的に年齢の引き下

け、あるいはまた一部負担の軽減、こういう措置につきまして、県下におきましては現在千葉市、市川市、船橋市、市原市、習志野市、それから館山市、この六市が実施してある、いわゆる国の制度に先がけていろいろ独自の対策を打ち出してあるわけでございます。

他の市町村の状況を聞きますと、大体千葉市をはじめとして五市がいわゆる年齢引き下げということでやっております。これは現行の老人医療費の無料化制度、あるいはまた今度の老人保健法の医療給付制度におきましても、一般老人につきましては七十歳以上の老人を対象としてあるわけでございますが、ただいま申し上げました市におきましては六十八歳、六十九歳というように年齢を引き下げ実施してあるわけでございますが、これらにつきましては、新しい老人保健法の施行後もなおこの制度を踏襲してやるというふうに聞いております。ただし、一部負担金につきましては国に定められましたとおりの金額を徴収する。それからなお船橋市におきましては、そのほかに独居老人を対象として医療費の無料化制度をやっておるわけでございます。

それから、館山市のように六十歳以上のねたきり老人に対するいわゆる医療費の無料化制度というものにつきましては、習志野市等におきましても実施してあるわけでございます。習志野市の場合におきましては、現在のところはつきりした、一部負担金を徴収するかどうかということはまだ明確にされておりません。そんなわけでございまして、館山市におきましてはいわゆるねたきり老人、あるいはまた一定の障害を持つ老人に対しては一切一部負担なしでいままでの、現行条例どおりに今後も継続して実

施していく、こういうことでございます。

次に、家庭奉仕員の関係でございすけれども、家庭奉仕員の資格というものにつきましては、特に資格の要件というものはございせん。心身が健全であることは当然でございすけれども、なお、身体障害者や老人福祉に対しましては非常に理解、熱意のある方、こういう方と、それからなお介護の経験とか、あるいはまた老人、身障者に対する相談、助言の事業もございすので、そういう面での能力を有する、こういうことでございまして、特に資格というものは限定はされておらないわけでございす。

それから、なお研修につきましては、当然介護の内容というものが非常に多種多様でございすので、それに対応できるようなやはり研修というものは当然必要となってくるわけでございす。これにつきましては定期的に研修を受けさせる、こういうことで臨むわけでございす。

それから、三点目の機能回復の訓練、こういうものが必要ではなからうかということでございすますが、これは当然でございす。これにつきましては現在各病院等におきまして実施してあるところもございすけれども、また一部特老等におきましてもそういう部屋、設備というものがございすけれども、この老人保健法におきまして、今度は老人の医療給付以外にやはり四十歳以上の壮年期を迎えた方々を対象としたいいわゆる保健サービスというものがあるわけでございすますが、その中でやはり一般検診あるいは健康教育、健康相談のほかに機能回復訓練、こういったものが項目に挙げられてあるわけでございすので、これらを館山市といたしましても直ちに採用するということは現在考えてお

りませんけれども、こういう問題を将来にわたりまして十二分に対応できるようなことで考えていきたい、このように考えている次第でございます。

それから、落としたけれども、家庭奉仕員の、いわゆる有料家庭奉仕員の派遣の場合の料金の基準でございますけれども、これにつきましては国におきまして定めております身体障害者家庭奉仕員、あるいはまた老人家庭奉仕員の派遣事業運営要綱というものがございまして、この要綱に新しく今度費用負担基準というものが定められておりまして、これは全国一律同じ料金でございます。地域格差というものが設けられておりません。

○二〇番（石井武敏君） 五十三号につきましては、こうした同種の条例を制定する市は千葉県にも少ないということで、六市ということで御答弁ありまして、かなり進んでいる福祉施策であるというように承りますので、五十三号につきまして了承いたしました。が、なお要望として、ねたきりの老人家庭に火災報知器と自動消火器の取り付け——非常にねたきりという人はそういう危険性が多いんで、そういった方向もぜひ検討していただきたい。昨日の私の通告質問との関連がありますが、要望として申し上げますので、検討を重ねていただきたいということを申し上げます。

それから、家庭奉仕員に関しても了解をいたしました。ここで、先ほど御要望申し上げたいわゆるねたきりの人たちの機能を回復するリハビリの出張サービスといえますか、リハビリの施設のところに出てくるのではなくて、出られない人に家庭で何らかの措置がとれないかということでございます。これは

将来的な意味で、将来そうした方向で考えたいというような答弁が返ってききましたので、そうした点で前向きに、近い将来の施策として考えていただきたいということを御要望申し上げます、私の質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第五十四号館山市身体障害者家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例及び議案第五十五号老人家庭奉仕員派遣事業に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねしようとするものであります。

質問に先立ちまして、この議案とともにねたきり老人の医療費の無料措置について、早速わが党の他市の議員から大変質問があり、館山市の今度の施策について大変な注目を浴びているというのをまずお知らせしておきたいと思えます。

家庭奉仕員の派遣、これらの対象の拡大については、昨年十二月議会では私が提言したものでありますけれども、今回このように提案されて、こうした施策がとられるということで大変歓迎するものであります。

一人暮らしの老人とたまたま話し合う機会も私ありましたが、そうした中でこういうような制度が今度実施する予定だということで、大変に歓迎するということのような話もありました。積極的な運用をぜひお願いしたいと思っております。

そこで、新旧の条例を比較しますと、旧の条例には奉仕員の身分、資格、奉仕員の服務についてきちんとした規定があったわけ



であります、改正案の中ではこの部分がすっぱりと抜けているわけです。旧条例では奉仕員の身分は常勤の市職員とした上で、「老人福祉に關し理解と熱意を有すること」、あるいは「家事、介護の経験と相談助言の能力を有すること」をどうたい、服務として「社会福祉主事の指導のもとに、つねに民生委員または保健所等の関係機関と連絡を密にして業務にあたるものとする」などと定めてあるわけでございます。

新条例の中では、奉仕員の身分保証の問題についてはどのようになるのか、また、資格要件ではどのようになるのか、その服務ではどうなるのかお聞かせ願いたいわけであります。

以上、御答弁によりまして再質問させていただきます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

家庭奉仕員の資格でございますが、心身ともに健全で、身体障害者福祉及び老人福祉に対しまして理解と熱意があり、また相談助言の能力を有する者が資格要件となっております。特定の資格要件はありませんが、研修会に参加することが義務づけられております。

また、奉仕員の服務でございますが、決定された奉仕業務の範囲内におきまして、誠実に奉仕し、福祉事務所あるいは民生委員等関係機関と連絡を密にし、業務にあたることになっております。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） いまのお話を聞きますと、現行の、旧条例の内容がおおむねそのまま引き継がれるというような理解になるわけですが、あえてそのことを条例の中から削って、何ら

かの具体的な形でそのことは実施要綱なり、そういう形で決めているかとするものなのか。また、あえて条例にうたわない、そうした理由については何なのか。そのへんについて御説明願いたいと思います。

また、今後、この制度が大変な注目を浴びているという、先ほどもちょっと発言をいたしました、その運用が今後どういうふうになるのかということでも、この身分の問題、そうしたことも含めて、わが国で初めて行ないわゆる有料福祉という内容をもって、いろいろ賛否両論、論議されているところだけに、こうした点非常に重要だと思っております。この運用の将来について、現時点では何名で、将来においては相当の人員、対象が運用によつてはふえるんじゃないかなという気もするんですけども、そこらへんについてのお考えなりがあればお聞かせ願いたいと思っております。

○民生部長（鈴木 力君） 家庭奉仕員の身分、資格等につきましては、現行条例におきましてはこまかく規定されておるわけでございまして、今回は全面改正に近い条例改正を行ったわけでございまして、その検討の段階におきまして、これらに属する規定につきましては施行規則の中でうたおうじゃないか、こういうような考え方に立っておるわけでございます。

それから、なお身分としましては、いままでいわゆる正規の職員という身分で採用するということが原則であったわけでございますが、今回、国の要綱の改正によりましていわゆる臨時的な介護需要に対応できる、いわゆる奉仕員の勤務体制を断続的にとる、こういうことでございまして、したがって新しい要綱におき

ましては日給のほか時間給の奉仕員の設置ができるようにされたわけでございます。これは有料——所得のある方、あるいはまた従来の低所得の老人、身障者にありまして派遣というものが断続的に運用ができるというようなことからこのような配慮がなされたものと思っております。

それから、今回の改正の趣旨といたしましては、まず派遣対象の拡大ということでございまして、これは当然市民税の所得割を課税されているような世帯までも派遣するというようなことになったわけでございます。それと同時にやはり派遣回数、あるいは時間数の増ということも図られております。

それから、先ほど申し上げましたように臨時的な介護需要の対応、いわゆる一時的な、臨時的な介護需要にも対応できるものにしたということでございます。

そういうことから、将来にわたりますては、やはりこの制度というものはかなり範囲が拡大されてくる、利用される方がふえていく、こういうような考え方は当然持つておるわけでございまして、現在有料に対する派遣につきましては——派遣があるわけでございますけれども、これにつきましてはこの制度をよく市民の方で知らない方が多いのじゃないかということでございます。そして、今後いろんな、民生委員とか広報等を通じて、この制度というものをPRしていく、このように考えております。

○一番（神田守隆君） 施行規則の中でうたうというようにわけで、そのことはわかりました。

施行規則でうたうんですから、施行規則を具体的に、委員会なんかで施行規則の案を十分示していただきまして、具体的な審議

をしていきたいと思しますので、そのことを要望しておきます。

もう一つ。なぜ条例にうたわなかったという理由につきまして先ほどの答弁で漏れておりますので、そのことについての答弁をお願いいたします。

それから、また身分の問題ではパートということで、時間給によるんだということで、これは従来常勤の市職員とするという規定は、奉仕員の服務内容との兼ね合いで身分保証がぜひ必要だ、こういった趣旨からあったものだというような理解をするわけです。そのことがヘルパーの派遣を受ける家庭の、たとえばブライバシーの問題とか、いろいろ家庭の中に入っていくことですから、そうした問題との兼ね合いとか、そうしたこともあろうかと思うわけで、パートということまで含めてというのは、大変今後に運用の問題を考えていった場合には、具体的にはかなりの問題があるんではなからうかというふうに思うわけで、現在、具体的に市のほうではそういったパートの制度の問題について、具体的にその人を雇うというような計画があるのかなのか。あるとすればどういうふうに考えておるかという問題。

それと、将来大変この人員がふえるということで、市民に対する周知徹底を図ればかなり人がふえるのじゃないかろうかと、私もそのとおりだと思います。

こういうような話もあったということなんですけれども、武蔵野市がこうした事業をやって、新聞でも大分センセーショナルに取り上げられまして、新聞を読みますとわざと武蔵野市に移住していくお年寄りもいたという話で、私も三カ月前の話ですけれども、ある著名な方の知り合いという方が私のところに、館山に住

みたいけれども館山ではどういうような福祉施策——この方もねたきりなんですけれども——福祉施策があるのか問い合わせがあった。そのときにこういう制度の予定があるということを私話しましたけれども、そういう点では大変この制度に関する関心が、館山市だけではなくその方でも大変注目されているという意味では、そういうふうな事態も場合によっては考えられるんではなからうかという気がするだけに、市のイメージのアップ、福祉の問題ということでも大変にいい結果につながるんではなからうかという感じをしております。これは質問ではありませんけれども。

以上、二点についてお聞かせを願いたいと思います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 先ほど、市の条例からはずした理由をお尋ねいただきましたのでお答えいたします。

身分保証は条例で制定してございましたけれども、採用そのものは長の権限でございますから、条例に書いてある、書いてないじゃなくて、市の職員の位置づけは変わりありません。

それと、内部的な規定といたしましても、事務分掌の位置づけはしてございますし、公務員の位置づけですから、その服務は地方公務員法がそのまま——何て言いますか、たとえば秘密保持とか、位置づけ、身分保証等は当然つながってきます。

そういう意味ではずしてございます。

○民生部長（鈴木 力君） 家庭奉仕員の増員に對しましては、当面具体的には臨時職員で……。

○一番（神田守隆君） 終わります。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わります。

通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっておりまう議案第四十九号乃至議案第五十六号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第五十七号乃至議案第六十一号昭和五十七年度館山市一般会計及び特別会計補正予算並びに老人保健特別会計予算を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございます数点につきまして、補正予算に關しまして御質問いたします。

質問は、説明資料により質問をして進めてまいります。

まず、第一点は、一九ページの総務費でございますが、ここに館山市町内会連合協議会補助金が載っておりますが、五百万円でございます。この件に關しまして、これは町内会の業務について、これが業務がふえてきたから、何か新しく町内会に委託する業務

がふえてきたからふやすのか、そのへんを少し明らかにしていた  
だきたいというように思います。

町内会の業務につきましては、あくまでもたてまえとしては自  
主的に進められて好意的なものである、町内会の好意によって自  
主的に行ってきたというのがたてまえでございますが、現実  
の側面から見ていきますと、町内会におきましては市側からの要  
請が重荷になっている、また仕事の分量が非常に多過ぎるとい  
うような傾向がありはしまいかという懸念を持っておりますので、  
そこで御質問するわけであります。この五百万円の補正額の説明  
を求めます。

次に、民生費の中の館山市社会福祉協議会補助金でございます  
が、これは寄附をされて、それが福祉協議会のほうに回ってきて  
いるということでございます。寄附をする側の誠意とか寄附をす  
る趣旨がよく生かされた措置が必要であるというように私は思う  
んですが、この件に関しまして御説明を求めるものであります。  
たとえば、こういうことがありはしまいかというように私は考  
えるんです。この寄附は身体障害者の対策のために使っていた  
きたいという旨の説明があり寄附をいたしました。それがそのよ  
うに使われていれば問題はありませんが、そのへんの寄附金の運  
用につきましてかねがね私はもう少し説明がほしい、説明をして  
いたきたいというように思っておりますので、今回たまたま紫  
織会、紫峰会からの寄附金ございましたので、それを一つの機  
会に説明を求めるものであります。

次に、二二ページの公園整備事業についてでございますが、こ  
こには公園の園路の測量設計委託料の入札残による減額が出てお

りますが、この入札の減額、入札の経過を説明してください。五  
十三万の入札減でございます。

次に、高ノ島公園整備事業がここに載ってきております。この  
高ノ島の整備事業はかねてから都市計画決定がなされている地域  
と伺っておりますので、高ノ島公園の整備事業の全容をここで関  
連して御説明を求めたいと思うものであります。

都市計画決定をされたこの高ノ島公園の計画、事業、整備は、  
あずまや一棟と便所一棟だけではないと思います。これはかなり  
古くから、かなり前から都市計画決定されているように伺って  
おりますので、この際その整備計画の全容を明らかにしていただ  
きたいように思います。

次に、館山の運動公園の整備事業でございますが、この事業は  
県で計画をしてやっているんですが、しかし利用するのは市民で  
ありますし、館山市のほうもいわゆる予算を組んでいるわけで  
ございますので、この館山運動公園の整備事業につきましても、こ  
の整備事業は全体の整備事業としては二十七億の整備であるとい  
うように承っておりますので、その事業につきまして、この際事  
業全体について説明を加えていただきたいというふうに思います。  
次に、九款の消防費でございますが、ここに可搬ポンプの購入費  
が出ておりますが、消防行政は災害から市民の生命と財産を守る  
という意味で非常に大切な行政であるというように私は常々考  
えておるものであります。可搬ポンプの機種と性能について説明  
を求めます。

次に、十款の教育費でございますが、ここに小学校の建物の修繕  
費と中学校の建物の修繕費が載っております。この修繕費につ

ましていさ少しく説明を加えていただきたいというふうに考えます。

次に、二四ページであります、特別会計の方ですけれども、水道会計におきましていわゆる電動力費、薬品購入費、燃料費、それから配水施設修繕費等々、次のページの二五ページにわたりまして減額が出ております。なぜこのように減額になったか、おのおの説明を求めたいと思います。

以上、御質問申し上げます。よろしく願います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

町内会に対する市からの委託業務が、町内会にとって重荷になつていないかという趣旨の御質問でございますが、現在市から各町内会にお願いをしております業務は、広報、回覧をはじめ市民への連絡業務を主なものといたしております。市民とのパイプ役、連絡役として大変御苦労をおかけしているとは思いますが、今後とも御協力をお願いしてまいる所存でございます。

町内会で行う業務は——現在の業務はふえないかという御質問もございましたが、現在の時点では今後業務をふやす考えはございません。

次に、社会福祉協議会の補助金についての御質問でございますが、昭和五十七年十月九日に館山市民センターにおきまして、西崎紫織さん主催によります身体障害者に愛の手をというテーマで民踊チャリティーショーが開催されました、多数の芸能人が出演いたしました、そのときの売り上げの一部を福祉資金といたします。

して六十三万六千円を館山市に寄贈されました。

市におきましては、その趣旨にのっとりまして社会福祉協議会に補助金といたしまして支出いたしました。社会福祉協議会を通じて各障害者団体に配分をいたしまして、御趣旨に沿うように有効適切に使いたいと考えているわけでございます。

次に、公園整備事業についてでございますが、諏訪山公園園路測量設計委託は、敷地内の道路と駐車場の実施設計を委託いたしましたもので、業者の選定は測量業者六社により入札により決定をいたしました。設計に対する予算四百万円のところ三百四十七万円で落札されましたので、その差五十三万円の残を生じたものでございます。

また、高ノ島公園につきましては、昭和二十四年に都市計画決定されましたが、未開設のままであったわけでございます。この敷地内にありますタブの巨木林は県下最大であり、イシカグマ——これはシダ類でございますが——の群生地は千葉県では当地だけでございます。また、この植物の最北端の地でもあり、海洋生物も豊富にあることから、その保護と観察のできる公園として、合わせて自然の美しさを味わえる公園として、またコミュニティ関係の補助が得られましたので整備いたしたいと考えているわけでございます。

その施設は、あずまや、トイレ、ベンチ、案内板、園路、駐車場、説明板、転落防止柵、階段等でございます。

次に、館山運動公園整備事業についてでございますが、この運動公園は昭和五十三年度から七カ年計画で実施をいたしております。五十七年度までに敷地の造成工事を主体に給排水施設、調整

池、電気工事等と多目的運動場ができますが、将来の予定としては、昭和五十八年度は野球場、汚水処理場、トイレ、エントランス広場、外灯、植栽等が予定されております。また五十九年度以降の主な施設計画は、体育館、テニスコート、管理事務所、運動施設照明工事、遊戯広場、遊歩道等が計画されております。

次に、小型可搬ポンプについての御質問でございますが、小型可搬ポンプは車両が水利に接近不可能の場合、軽量で容易に消火活動ができることが特徴で、特に山林火災等には最適であります。

機種といたしましては、Bー三級、三十三馬力で、消防法第二十一の二の規定に基づく日本消防検定協会で合格したもので、吐水能力は毎分八百五十リッターから千二百リッターでございます。このたび購入するものは、山林を抱えている第七分団——すなわち藤原、犬石、富崎地区でございますが、そこに配置をいたしました、消防ポンプ自動車の併用により能力のアップを図るものであります。

次に、小、中学校の修繕費でございますが、小学校費で二百三十七万七千円、中学校費では二百十二万一千円の増額補正をお願いするわけでございますけれども、主な修理といたしましては、ガラスの破損修理、水道、水洗便所及び尿浄化槽等の給排水衛生設備の修理、漏電等の電気設備の修理、出入口戸等の建具の修理、消防設備の検査不良個所の修理等、学校施設の維持管理及び児童生徒の安全確保のために緊急に修理を要するものの修繕費でございます。

本年度は、これらの緊急修理が多く、現在までの執行状況からみて不足が見込まれますために、増額補正をお願いしようとする

ものでございます。

次に、水道事業会計補正予算のそれぞれの減額についての御質問でございますが、まず動力費九十八万六千円の減額であります。これは作名ダムへの汲み上げに要する電動力費がかからず済む見込みでありますので減額いたしました。昨年に比較しましてことしは降雨量が多く、四月から十一月までの降雨量が対前年比二五・九％、三百七十六・七ミリメートル多かったことによるものでございます。

次に、薬品費二百三十万七千円の減額でございますが、これは薬品単価の値下げ等による減額でございます。浄水場で使用する塩素並びにポリ塩化アルミニウムにつきまして、当初塩素は七・七％、ポリ塩化アルミニウムは一一・一％の単価値上がりを見込み予算計上いたしましたところ、塩素は前年度より六・七％の値下げ、ポリ塩化アルミニウムは単価据え置きとなったためでございます。

次に、燃料費五十万一千円の減額でございますが、自動車用ガソリン消費量の減少によるものでございます。これは館山、北条地区への給水につきまして本年三月上真倉慈恩院入口近くへ自動車水圧調整弁を設置したことにより、これまで毎日手作業で行っていましたバルブ操作がなくなりましたことと、本年十月より漏水修理工事のうち、宅内引き込みや蛇口漏水修理工事を館山市水道指定工事店へ委託したことにより、自動車の走行距離が減ったためであります。

次に、修繕費五百七十四万七千円の減額でございますが、主なもの配水施設修繕費百二十二万三千円、量水器取替費三百九十

九万五千円、消火栓修繕費四十五万円の減額でございます。

配水施設修繕費の内容でございますが、仕切弁設置工事及び漏水修理工事で当初四百万円予算計上いたしましたが、入札結果等により減額するものでございます。

最水器取替費の主な内容は、本年度取り替える口径十三ミリメートル及び二十ミリメートル量水器二千六百二十個のうち、千五百二十個分を新品単価、残り千百個分を改造修理の量水器単価で予算計上いたしました。二千五百個程度改造修理の量水器が使用可能となりましたので、その差額分でございます。

消火栓修繕費につきましては、入札残でございます。

次に、一時借入金利息六十九万一千円の減額でございますが、本年度の資金計画で一時借入の予定がなくなったためでございます。

次に、補償費百二十四万四千円の減額でございますが、これは地主側の理由により作名ダム隣接地の山林が本年度買収できなくなり、立木補償が不用となったためでございます。

次に、企業債償還金三千三百八万九千円の減額でございますが、公営企業金融公庫貸付金のうち、最高利率のものを本年度繰上償還する予定で計上いたしました。事業体の財政事情のみでの繰上償還は認めていないとの回答があり、そのための減額二千六百八万七千円と、公営企業金融公庫貸付金のうち、昭和五十一年度及び五十二年度債につきまして、元金均等償還から元利均等償還に償還方法が変更されたことに伴う差額七百万二千円の減額でございます。

以上、答弁を終わります。

〇二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきましたが、なお何点が再質問したいと思っております。

まず、町内会に対する補助金についてでございますが、町内会の業務等々、業務の内容等はよく理解できました。

そこで、町内会の補助金の分け方ですが、これはどういうふうに分けているんですか。均等割——たとえば十五町内だったら十五分の一ずつ分けていくんでしょうか。分け方について、配分の仕方について伺います。

また、配分して、それを向こうで受け入れるんですが、個人名で受け入れるんですか。あるいは町内会として会の名前で振り込むんですか。そのへんをもう少し具体的にお知らせいただきたいと思っております。

それから、好意のある寄附金についてでございますが、寄附金の運用につきまして御説明いただきまして、各身体障害者団体にこれを配分したという御説明がありましたけれども、身体障害者団体はどのように分けられたか、資料があったら説明を加えていただきたいと思います。これは館山市内の何団体にどういうふうに分けたか、雑駁な答弁で結構ですけれども、お答え願いたいと思います。どこの団体に出されたか。

それから、公園整備事業の方の入札残でございます。これは当初四百万予定しておったものが三百四十七万円で落札をされた。それで五十三万の残ができた。これは入札をした六社のうちで一番額が四百万に対して——こちらで枠組みをした四百万に対して三百四十七万ということで安かった——一番安かったから仕事を願ったんだというように受け取っていいんでしょうか。

それから、次の運動公園整備事業でありますが、運動公園整備事業としてはたゞいまのどういう整備がなされるか。二十七億という総額の整備に対して何と何というお答えがあったんですが、その中に照明工事というものが出てきましたけれども、これは夜間運動ができるための照明を設置するという工事の内容ですか。照明工事について御説明を求めます。

その他、可搬ポンプについて、あるいは小、中学校の修繕費についてでは了解をいたしました。

水道会計につきまして、非常に細かく具体的に御説明がありまして了解をいたしました。が、関連として一点御質問したいんですが、水道を布設する場合の基準として――基準をお伺いしたいんですが、最近住宅事情――造成して家がどんどん建ってきて、新しく団地ができるというのが館山市内にも多くなってきたりあります。いままでも水道がなかったんですが、ここで十五世帯、二十世帯、三十世帯になってきた、世帯がふえてきた、ここへ水道を引きたいんだという要望を耳にしますが、こうした水道を新設する際の基準について明らかにしていただきたいというふうに思います。布設を計画する付近に何世帯あれば布設が可能なのか、そうした基準があるかどうか。あれば明らかにしていただきたいと思ひます。関連として御質問いたします。

以上です。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 館山市の町内会連合会の補助金のことについてお答えいたします。

補助金の配分方法と受け入れ方法をお尋ねいただきましたけれども、市といたしまして、御案内のように十月二十日に町内会の

連合協議会が設立されましたことによりまして、その会長さん、松本藤太郎さんあてに出したいと考えております。

それと、受け入れ方法でございますが、それは連合会内部で御協議いただく、そういう流れになるかと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 社会福祉協議会におきまして、市から助成しました補助金につきましては、現在のところ身体障害者団体といたしましては、館山市身体障害者福祉会、それと館山市の手をつなぐ親の会、それから館山市肢体不自由児父母の会、それから館山市言語親の会、館山市手話サークル会、この五団体を予定しているというふうに聞いております。

○経済部長（山田俊康君） 諏訪山公園の関係でございますが、入札残五十三万の関係でございますけれども、最も安かったものを落札したのか――御指摘のとおりでございます。

それから、館山運動公園の照明関係でございますが、運動施設の照明を考えております。

○水道課長（吉田清一君） 水道未設置地域の水道布設についてお答えいたします。

市は、個人から申し込みがあれば布設をしなければならぬという義務がございます。したがってその布設の基準というものは特に定めてございません。しかし、現実の問題といたしまして、配管の距離、あるいは加入戸数等によっては、財政的な面から困難な場合がございます。

したがって、従前は、一応目安といたしまして、水道加入希望者がその地区で大体三十戸程度とまれば布設をするという考え方で実施してきたところでございます。



現在、住民の飲料水の実態等を調査いたしましたして、水は不可欠のものでございますので、公衆衛生の面から、あるいは生活環境の改善の意味から、そういうことを優先的に考えまして、現在の段階では特に三十戸という数字にこだわらず水道の布設を実施しておるところでございます。

それから、宅造関係につきましては、その状況によりまして、宅造業者に布設をさせて、実際に配管は事業者負担をさせている状況でございます。

以上でございます。

○二〇番（石井武敏君）　まず、町内会についてでございますが、個人に渡していくとなると、個人名としては、何かおかしいように受け取れます。そのへん問題がなければいいんですが、町内会としては町内会の銀行口座なんかを設けてあって、そこに振り込んでいくのではないかとというふうに思いますが、そのへんを明らかにしていただきたいと思えます。問題が起こってからでは遅いと思えますので……。

それから、寄附金につきましては了承いたしました。

次に、先ほど出ました設計委託料の入札残につきまして、こうした場合の類例としてお尋ねいたしますが、市では四百万の枠組みで考えておった、一番安いのを入札された、こうした際の市の予定された額、特に測量設計委託料につきまして、これは額があまり安過ぎる場合が出てきたとすればこれは仕事の内容との関係が出てまいります。市の考え方としてはどの程度まで——安くするといっても、一番安いところからといってもこれは問題があると思えます。ですから、設計委託料に限って御質問しているん

ですが、これは予定された額の何割ぐらいまでの幅を実際には考えておられるんですか。安いからといってこれは落札できないというふうに私は仕事の内容から考えるんですが、お答え願いたいというふうに思います。

それから、館山運動公園の整備についてありますが、照明工事というのは夜間運動ができるように照明をする設備であるというように答弁から承りました。ぜひ早期にそうした照明の設置を要望するものであります。これは御要望申し上げます。

それから、水道会計につきまして御答弁いただきましたが、特に新しく布設する水道、そういう地域に関しまして、水道を布設するための基準というものは条例とかそういったものにはない。考え方としては基準はない、基本的には。という答弁で、たとえば何世帯以上なければ水道は引きませんという基準はない。しかしいままでの事業の推進から見ても三十戸程度のものが集まれば布設は考えてきた。これからもそういうふうに考えていくということ、私の質問の答えとしてははっきりわかりました。

水道の布設につきまして、水道というものは非常に公共性のあるもので、水というものはどうしても人間にとって必要なものでありますことは申すまでもありません。公共性という面から見て、三芳水道と館山の水道とこうした場合の基準とか考え方とか、そういうものは館山市水道であっても三芳水道であっても公共性からいけば共通した考え方と基本的な基準といえますか、考え方がなければならぬというふうに私は考えますが、布設する際の基準としては非常に類似をしているということでしょうか。館山市水道と三芳水道との関係を見まして、またそう

した場合の話し合いも事実起こってくるのではないか。館山市水道と三芳水道と話し合う場所というものが私はあると思いますが、そのへんにつきまして少し答弁をいただきたいというふうに思います。

以上、五点お伺いいたします。質問としては終わります。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 連合会の補助金からお答えをいたします。

市はあくまで連合会長名で補助します。そういう意味でお答えを申し上げたつもりです。

それと、先生のお説のように、協議会内部の協議事項でございですが、各団体にお金が配分された場合、個人名ではいかぬぞと、そういう内容等承りまして、理事会等いろいろございしますので、市といたしましてもそのへんは十分指導していきたいと考えております。

それと、もう一点は、入札最低価格のお話ございましたが、五百万以下は現在最低制限価格は設けてございませんが、内容を十分チェックしているつもりでございます。御案内のように財務規則では五百万円以上のものについては最低制限価格を設けてございます。

以上でございます。

○水道課長（吉田清一君） 配水管布設につきまして三芳水道企業団との関連でございますが、館山市の水道は三芳水道企業団と全く同じように実施をいたしております。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第五十七号一般会計補正予算及び議案第六十一号昭和五十七年度館山市老人保健特別会計予算についてお尋ねを申し上げます。

まず、一般会計の補正予算についてありますが、私の質問は定例議会議案に沿って行いたいと思います。

まず、一五ページの総務費であります。先ほど来質疑がされております町内会の連合協議会補助金五百万円についてお尋ねをいたします。この補助金の補助目的について、何を目的としておるかお聞かせを願いたいと思います。

次に、民生費についてであります。二〇ページ老人福祉医療費、この中の老人医療の扶助費についてであります。六百五十四万一千円についてであります。予算説明書の一九ページの積算によりますと、老人医療が老人保健法の成立に伴い二月一日から施行される、こういうことで、それで積算が示されているわけですが、そこにおいては十一カ月の予算ということで計上されているわけがあります。この老人医療の積算の計算の仕方、私は十カ月になるのではなからうかというように感じもするわけで、これについての御説明をいただきたい。

次に、二二ページの衛生費についてであります。じん芥処理費の中で臨時職員賃金ということで百三万九千円が計上されているわけがあります。この増額の理由——臨時職員をふやしたのかどうか。こういうことについてお聞かせを願いたいと思います。

次に、二七ページ土木費についてであります。街路事業費ということで、街路用地購入ということで二千六百二十二万三千円が

計上されているわけであり。説明書によりますと八幡高井線用地購入費ということでありますが、この都市計画街路八幡高井線の用地購入にあたり地権者等の話し合い、こうした点の了解、こういったものが得られた上での予算の計上であるのかどうか。その話し合いの経過及び結果についてお聞かせ願いたい。

次に、二八ページの負担金で館山運動公園整備事業負担金が減額二千六百万円ということですが、事業費が当初予算で見ますと三億五千万円五十七年度では事業を行うんだ、そしてこれが二億二千万へと一億三千万ほど事業総額が減少し、それに伴う市の負担金が減ったんだ、こういうような説明になっておりますけれども、この事業そのものが減になった理由——このことが完成年度等について全体のずれ込みなどというような影響が考えられるのではないかと思います。これについてお聞かせを願いたいと思います。

次に、教育費についてであります。二九ページ小学校の管理費で需用費ということで光熱水費四百三十三万九千円増額の予算を組んでいるわけでありまして、三〇ページを見ますと、中学校で同じく光熱水費二百十四万二千円ということで増額の予算を組んでいるわけでございます。特に小学校については五十六年の決算と比べますと一千万近くもこの光熱水費がふえているというような結果になるかと思えます。こうした増額の理由についてお聞かせを願いたいと思うわけであり。ます。

次に、議案第六十一号の館山市老人保健特別会計予算についてあります。五九ページにあります。一つは老人保健特別会計予算ということで特別会計が設定されているわけであり。ます。

このことに關して条例の制定——これが地方自治法の規定、二百九条に基づく条例の制定が必要なのではなからうかと思うわけであり。ます。これが必要でないということで提案されているというふうに理解をするわけで、この点についての御説明をお願いしたいというふうに思うわけであり。ます。

それから、老人保健法の医療費の、六〇ページに歳入合計として一億四千九百五十一万五千円が計上されて、それぞれその負担が支払基金、国庫支出金、県支出金、繰入金ということで、支払基金の負担、国庫の負担、県の負担、市の負担ということでそれぞれ七〇%、二〇%、五%、五%という法の規定によるものではなからうかと思うわけであり。ます。この中で支払基金の国保会計からの拠出金、これの負担方法についておおむねどういうような形で負担がされるのか御説明を願いたいと思うわけであり。ます。老人保健法に關係をいたしまして、関連をして質問をするわけであり。ます。老人保健法は医療費一部負担の導入など、受診抑制を基調としているという点で大変問題点を持っていると思うわけであり。ます。同時に四十歳以上の保健事業の推進を掲げているわけでございます。この面での施策について先ほど来若干質疑もあり。ました。市としては現在どのように進めようとしているのか。また、保健事業の財政上の措置、これについてはどのようなおののかお聞かせ願いたいと思ひ。ます。

以上、答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。町内会連合協議会補助金についての御質問でございますが、館

山市町内会連合協議会の設立目的は、町内会相互の連絡、協調と親睦を図り、市政に協力するとともに地域社会の発展に寄与することとなっております。

このような住民の自主的な意思に基づいて組織されましたこの町内会等住民自治組織の円滑な自治活動を助長するため、補助を行うものであります。

次に、老人医療扶助費につきましては、事業年度区分が三月診療より二月診療となっておりますが、老人保健法の成立に伴いまして、今年度は一月診療をもって終了いたしますので、十一カ月の執行になるわけでございます。当初予算に対しまして受診率及び受診単価が若干の増となりましたので、その不足額を補正するものでございます。

次に、衛生費臨時職員賃金でございますが、昭和五十七年度内において職員の配置がえにより一人減じた正木処理場職員を臨時職員で補充したための賃金でございます。

次に、街路事業として実施しております八幡高井線は、市街地交通のネットワークの点からも、市民を交通安全から守る上からも、あるいは産業の発展からもきわめて重要な路線であります。地主さん方の御理解をいただきながら事業の推進を図っていきたいというふうに考えております。

次に、館山運動公園整備事業でございますが、この公園は安房地域十一市町村の都市公園の中核としてスポーツ、レクリエーション活動の場として整備する目的で、昭和五十三年度から昭和五十九年度までの七カ年計画で事業実施中のものでございます。

五十七年度までに実施しているものは、敷地の造成工事、調整

池、流末水路、排水工、給水工、電気工、多目的運動場等でございます。

五十八年度以降の予定では、野球場、体育館、テニスコート、管理事務所、運動施設照明工、植栽等が予定されておりました、最近の情報では公共事業の關係から三年程度延長されることが予想されるわけでございます。今年度の事業の減は国庫補助の減少によるものでございます。

次に、教育費の光熱水費の問題でございますが、小学校費の光熱水費で四百三十三万九千円、中学校費の光熱水費で二百四万二千円の増額補正をお願いするわけでございますが、そのうち電気使用料増額の主なものとして、船形小学校の改築とキュービクル設置、旧東小、西小の統合により旧西岬中学校校舎を使用するための増と第二中学校が西岬中学校を迎え五学級増となったこと並びに第三中学校が五十六年度六教室増築をしたためでございます。なお小、中学校とも若干の増が見込まれますが、社会体育に体育館を開放しておりますが、使用増加のためでございます。

次に、水道使用料増の主なものとして、船形小学校の自家水から三芳水道に変更したことで西岬小学校が旧中学校プールを改修して使用したことでございます。また、中学校生徒数が五十六年度と比較して二百名の増加となっており増額の原因となっております。

現在の執行状況からみて不足が見込まれるため増額補正をお願いしようとするものでございます。

次に、老人保健特別会計についての御質問でございますが、老人保健法の制定に伴いまして、医療費につきましては法により特

別会計の設置が義務づけられましたので、条例の設置は必要ございません。

また、これに伴います一般会計からの繰入金の額につきまして、医療費総額に対し十分の七が基金からの交付金、十分の二が国、十分の〇・五が県とおのの相当額が負担されるため、この差額である十分の〇・五相当額が市の負担として計上されているわけでございます。

また、老人保健法に伴う医療以外の保健事業につきましては、健康手帳の交付、健康教育、健康相談、健康診査、機能訓練、訪問指導等が法に規定されているところでございます。具体的な実施方法といたしましては、それぞれ地域の実情を考慮し、昭和六十一年度を目標年度として段階的に推進するように定められているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） 町内会連合協議会補助金の問題についてお聞かせ願いたいと思うんですが、この補助金の内容、性格が、円滑な自治活動の推進と大変抽象的な御答弁ですけれども、町内会連合協議会の会則ですか、そういうものを見ますと、一定の事業計画を行うという、事業目的をそれぞれ年度に立てて行うんだというところもあります。事業内容に応じた補助金という形でやっていくものなのか。そういうことではなくて、いま言ったような自治活動の推進という趣旨ですと、毎年計画的にこういう形でこの会の基本的な財源として出していかうとするというそういうものなのか。そのへんの区別をはっきり聞かしてほしいわけです。

それと、さらに町内会連合協議会では具体的にどういうような事業計画を現時点では計画されているか、おわかりでしたらお聞かせ願いたいと思います。

それから、連合会への加入率の問題ですけれども、これは一応館山市内の全世帯が入っているというふうに現時点で考えて差し支えないものなのかどうか。

それと、町内会の会則によりますと、一世帯当たり二十円というようなことで会費を集めるというような規定もありますけれども、五百万という市の補助金は連合協議会の予算全体にどのくらいのウェートを占めるものなのかということで、理解をしたいと思いますのでお聞かせを願いたいと思います。

次に、老人医療費の関係であります。質問の内容についての御答弁で大体わかるわけなんですけれども、説明書の中で見ますと十一月とあることで切ってしまうわけで、ところが市ではねたきり老人の一部負担の肩がわりというような単独施策も実施するわけですね、そうすると十二月の予算が必要なのではなからうかというふうに思うわけなんですけれども、この部分についてはどういうような財政上の措置がされているのかということですね。

それと、臨時職員の問題については大体わかりましたけれども、確認のために、臨時職員がふえながら一般職の給料が減額になっているものですか、当初の予算の中で、職員として、臨時職員から常勤職員にするというように予算を減額したということではない、そういうような予定を実施しなかったということではないんですね——という、この点についての確認をお願いしたいと思います。

それから、八幡高井線の問題につきましては、地権者の了解を図るよう今後努力いたしたいということで、現状では地権者との話し合いはついていない、こういうことなんです。

それから、運動公園の整備事業については、三年程度の延長といますと、六十三年度まで、七十年というものが十カ年計画に変更する、こうした動きが出てきているということで、これはやはりゆゆしき問題で、館山運動公園はやはり重要な事業でありますし、積極的に計画どおり推進されるよう働きかけていく必要があるんじゃないかと思うんですけれども、この点について市としてはどのような対応を考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

それから、小学校費については大変いろいろ細かく御答弁いただきました。五十六年度の決算との比較で見ますと、電気の使用料とか水道水の使用料ということで、大体前年度の実績との比較でということで見ると、五十六年度の決算が二千六百六十九万一千円に對しまして、今度の小学校の場合には当初予算で三千万ほど見込んでいたわけで、四百万ほど多く当初予算に初めから見込んでいたわけですけれども、さらに補正で四百万ということですから、一千万に近い——小学校関係だけですね。先ほどの説明でいきますと、船形小学校の改築に伴い、水が自家水を変えて三芳水道に変えたということなどが、小学校に關する問題がありましたけれども、特に、小学校についてもう少し具体的に聞かせ願えれば……。

中学校については大体わかりました。  
それから、老人保健特別会計については、特別会計の設置の必

要はないということで、法で義務づける機関委任事務というようなことで、国から義務づけられたということで理解をいたします。  
老人保健法の問題で、それぞれ負担割合の問題——支払基金、国、県、市ということでも、この点については了解をするわけなんですけれども、当初は国保会計の老人の負担というのが大変国保会計を圧迫するという議論が大変にされてきたわけなんですけれども、国保の会計を見ましても、本年度の動向で見ますと、老人保健への拠出金と老人保健のために要らなくなる医療費の負担、それがそれぞれ減額とそれから増額ということで計上されてあるわけでございますけれども、その数字を見ますと、むしろ国保会計の負担がふえている、ほとんど減るといふようなことはないというような面からは理解ができるわけで、そういうことで支払基金なんかの算出方法等について大変関心を持つわけなんですけれども、細かい話は別の機会にして結構ですけれども、館山市としては、国保の關係で見ますと——老人保健というのは、館山市の国保という立場で見ますと、減ることはなくてもふえることはある、こういうようなことになるのか。むしろ減るということになるのか。このへんについて大まかな話で結構ですからお聞かせ願いたいと思います。

老人保健法で予定されております保健事業、六十一年度を目標にということでありましても、先ほど機能回復訓練の問題が論議されましたが、市としてはまだ踏み切る考えは持っていないということでありましても、大変、機能回復訓練では脳卒中の問題ということで大変注目を浴びている問題だと思えます。いま市が取り組みをちゅうちょしているということではどう

いう問題があるのか。いろいろ考えられているわけですが、訓練をする人の問題とか、財政上の問題とか、あるいは医師会との協調の問題とか、いろいろな問題が考えられた場合あるうかと思えますけれども、率直な話、どういふような点が現在のところ問題になっていることなのかお聞かせを願いたいと思います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 町内会連合協議会のお尋ねにお答えをいたします。

内容、性格の話がございましたが、御案内のように理事会というのは基礎的な団体だ、そういうことでたとえば婦人団体、老人クラブ、子供会、PTA、スポーツ団体、趣味の会とかいろいろございますけれども、その後ろ盾をするような団体と認識しておりますし、また市民と行政ということを考えました場合、市民参加として自主的に参加をいただく、自主的に行動もしていただく相互協力と理解、市ともども相互協調を図っていききたい、そういうことと、市といたしましては市民の調整役なり、行政のある一面の補完団体である、そういうお願いのもとで、事業内容等基本的な考え方に立ちまして補助金を支出しているわけでございます。

それで、まだ決定の内容ではございませんが、内々にいま現況で伺っておりますことは、地区交付金と地区活動費、それと研修視察費とか、あとは会議費、もろもろに使いたい、そういうお話は伺っております。

それと、加入率の話が出ましたが、現時点では全世帯、一万七千百三十一世帯と市は考えております。

それと、二十四会費のお話しございましたが、私の方も内々のお話しでは二十円として三十五万程度の会費をあげたい、総額五

百三十五万円で運営したい、については先ほどお話しありましたように、地区交付金を——その中から本部で若干の経費をとりまして、あとは地区に交付したい、そういう考え方として伺っております。

○民生部長（鈴木 力君） 老人保健法の施行によりまして、五十七年度予算の予算措置がどのようになされているかということですが、まず老人保健法の適用を受けます六十五歳から七十歳未満のいわゆる障害を持つ老人の一部負担の軽減につきましては、現行の身体障害者医療費支給条例を適用いたしまして、一部負担を肩がわりしていく、こういう考え方。

それから、なお新しく制定しようとする、ねたきり老人の新しい条例の関係の予算措置につきましては、現在におきまして対象者の把握ということが非常に困難でございますので、これらにつきましては特に五十七年度予算には予算措置というものは講じてございません。

それから、老人保健法が施行された場合、当市の国保会計への影響でございますけれども、これにつきましては高額療養費の問題、あるいは国庫負担金のうち療養給付費、あるいは調整交付金こういうものの交付というものがまだはっきり決定されておりません。また、一部では事務費を——事務費は全額国庫負担というたてまえでございますけれども、これを保険料で肩がわりさせよう、こういうような意向もあるようでございますので、きわめて流動的な面が多いわけでございますが、雑駁な概算でございますけれども、国保会計で年間を通して軽減されるであろうという数字につきましては大体七千万程度軽減されるであろう、こう

いう推測をいたしておるわけでございます。

次に、老人保健法施行に伴いますいわゆる保健サービス事業につきましての機能回復訓練につきましては、まず理学療法士という者が非常に少ないということで——これらの方のもとに指導訓練を行うわけがありますが、これが全国に六千人しかいないというところでございまして、この確保という問題が困難なわけでございます。

それから、なお老人等の機能回復につきましては、現在市内の病院におきましてこの取り扱いをされている面もございまして、先般も医師会との話し合いの中でこの問題も出たわけでございますが、将来やはりそういった機能回復訓練というものも取り上げていかざるを得ないんじゃないかと思うわけでございますが、当面はこの事業につきましては成り行きを見守っていきたい、このように考えております。

○経済部長（山田俊康君） 八幡高井線の街路予定地の買収関係でございまして、計画いたしました全体では共同相統等もありましたために六十八件ありました。現在、地権者会議等を二度全体会議をもちまして、その後地主と個々に交渉しております。

現在までに承諾、あるいは買収済みになったものが、六十八件のうち五十九件。九件が現在御理解をいただきながら事業の推進を図ろうとして交渉を継続しているものでございます。

それから、館山運動公園の関係でございましてけれども、正式に三カ年間延長ということはまだ聞いておりませんけれども、当初計画で申しますと、五十七年度末には全体の事業費が十六億ほど完了する予定だったのに、今回のこの公共事業のつき方等から考

えますと十億八千万程度、これでは五十八、五十九の二カ年でやれないんじゃないかということで、われわれも国や県にお願いしているわけですが、現実の問題として国の財政上の問題等から、どうしても三年程度は延びるんではないだろうかというようなことをにおわせているのが実情でございます。

それから、もう一つは、市といたしましては、できた施設が、一部供用でもいいから住民に使わしてほしいということでの要望等を、今後続けてまいりたいと思っております。

○教育長（安田豊作君） 小、中学校の光熱水費増についての御質問でございますが、一般的に言って光熱水費は、個人の家庭でもそうですが、年々増加している。学校に対しては節約を強く呼びかけて、節約するようにはしておりますけれども、社会の進歩と文化の向上に従って光熱水費はふえるんだというのが一般的な傾向でございます。

御質問の中で、「特に」ということでございますが、小学校費に限ってお話しますと、市長からお答えしましたように、船形小学校を改築しました。そうしますと、一教室を例にとりましても、約三倍の電気の設備がなされているというのが——一般的な改築ですと、そういうことになっております。その他の電気使用設備を入れますと、船形ぐらいになるとキューピクルの特別設置が必要になります。基本料金が上がります。そういうことで二百五十万の増が考えられます。

それから、西岬の西小、東小は、旧西岬中学校校舎を使用いたしました、これが鉄筋校舎でございますので、これは市の所有が中学校から小学校に変わったんで、中学校費が小学校校費に回るわ



けですが、これが百五十万の増加。

それから、水道料で申しますと、船形小学校は自家用水——井戸水を使っておりましたのを、改築に伴って水道を使用せざるを得なくなりまして、三芳水道に変えましたための経費が百三十万の増が考えられます。

それから、西岬小学校プール——これは西岬中学が使ってあったものですが、この水道使用料が七十五万かかる。

こういうふうなことで、小学校だけ申し上げましても、電気使用料で当初予算の一二・七％の増、水道料で一七・六％の増ということが予想されて、今回の補正をお願いしたわけでございます。

○一番（神田守隆君） 町内会の問題で、基本的な考え方で矛盾をしているんじゃないかなという印象を持つわけで、市長さんにお聞きしたいんですが、先ほど町内会連合会について、石井議員の質問に対して、いろいろ業務をふやしていく考え方はないんだというような御説明で、自治団体としての性格を尊重していくという、こういう趣旨だと理解をしていたんですけれども、いまの部長さんの御答弁では、行政の補完という言葉で説明があったんで、そういう言葉を振り回されたんでは困るんではないかというふうに思うんですけれども、これに対する市長さんのお考え方をさちっとお聞きしておきたいと思います。

他については……。それだけ伺いいたします。

○市長（半澤良一君） 先ほど石井議員さんの御質問にお答えいたしましたように、市としては町内会には広報とか回覧の配布等を行政の連絡をお願いしているわけでございます。

現実、町内会の動きを見ますと、たとえば社会福祉協議会、

あるいは共同募金会で募金をいたします場合に、やはり町内会を一つの基盤として考えている。市としてはいま申し上げた範囲に限定しているけれども、実際の動きはそういうことで、また福祉協議会ばかりでなくて民生委員等も町内会を頼りにやっている。市のお願ひしました以外のことで仕事があるわけでございます。

市として業務をふやさないように心がけているわけでございますが、実際に市の一つの自治会といたしまして、各種団体がこれに頼るということがあるわけでございまして、そういう意味で行政の補完という言葉を使っただんだと思ひますけれども、確かにそういう意味では、広い意味での市の行政という立場から考えれば大変役立っているわけでございます。

そうしたことも考えまして、こうした協議会ができました機会に補助を申し上げて、そうした自治組織が円滑な自治活動ができるといふようなことで補助するわけでございます。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を結びたいします。

#### 委員 会 付 託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっておりまます議案第五十七号乃至議案第六十号の各会計補正予算及び議案第六十一号の老人保健特別会計予算については、お手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 陳 情 書 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第三、陳情第二号優生保護法改正に関する陳情書を議題といたします。

陳情書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

#### 委員会付託

○議長（林 豊君） 本陳情書につきましては、文教民生委員会に付託をいたします。

#### 請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、請願第五号大型店出店促進に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

#### 請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） ただいま上程されました大型店出店促進に関する請願書の趣旨につきまして、紹介議員の石井 正、石井 昌治、安澤徳順、山口 康議員らにかわって御説明を申し上げます。

この件に関しましては、昨日の当議場におきまして、私は詳細に質問申し上げたわけでありますが、特別委員として館山商工会議所商業活動調整協議会に加わっております市の今後の対応につきまして要望いたしました。

すなわち、「公平、中正な立場で市民の要望を踏まえながら一日も早い結審の方向で臨んでいただきたい」ということを要望しているわけでございます。これは速記の写しであります。これに対して、半澤市長はこう答弁されました。これも速記の写しでございます。「確かに早期出店を望む消費者の声もございませうけれども、これを遅くしてくれという小売り業者の声もございませうので、両方の意見が、利害が相反する者の意見が対立しておりますので、公正な立場にある市といたしましては、ただいまのような御要望におこたえするわけにはまいりません」、こうなっております。

そうなりますと、特別委員たる市の立場が一方に偏し、一部商業者の立場に立つとの印象を与えかねないので、私は本日の本会議開会に先立ちまして市長とお会いして、御見解を伺ったのであります。これに関しましては、言葉が若干不足した旨の御説明がありました。

そこで、本請願がやがて建設経済委員会の付託に付されることになりましたので、委員会の審議の過程で重ねて申し上げることにいたしました。が、いずれにいたしましても、館山市船形三百八十九番地の主婦茂木八重子さんをはじめとする市内の五千七十名の連署をもちまして、一日も早く市内に大型店の出店が実現するよう促進させてもらいたいというのが請願の趣旨であります。

十  
いろいろな見解、御意見をお持ちの方々もあられることは十分に承知しております。しかしながら、消費者の切なる願いを無視するわけにもまいりません。

市内の消費者は俸給生活者だけに限られていません。公務員をはじめとする勤労者一般は申すに及ばず、農業者、水産業者もまた日常生活を営む上では純然たる消費者でありましょう。つまり、一部の商業者を除く全市民が日常生活の上では消費者の立場にあると申せます。

しかしながら、そうは言いつても、相反する見解があることもまた否定できない事実です。

世論を二分することなく、その調整を図りつつ、消費者の願いが実現するように議員各位の温かい御理解をいただきたい、また出店促進に一臂の力をおかし願いたいというのが請願人の請願の趣旨でございます。

なにとぞこの請願を慎重に審議された上で、満場の議員各位の御賛同を賜りたく、ここに請願人並びに紹介議員にかわりまして趣旨を御説明申し上げます。御清聴を感謝し、説明を終えます。ありがとうございます。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

### 委員 会 付 託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託をいたします。

延 会 午後零時六分延会

○議長（林 豊君） お諮りをいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明十二月十五日から十二月十七日まで委員会での議案審査のため休会、次会は十二月十八日午前十時開会といたします。その議事は議案第四十九号乃至議案第六十一号に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決といたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第四十九号乃至議案第六十一号

二、陳情第二号、請願第五号